



巖嶼繪馬臨金

初編

五







嚴島扁額縮本初編卷之五

目錄

楓鹿之圖



林和靖之圖

三千風書

誹諧發句短冊寄之額

細工墨形之額

神馬之圖

附錄

大小之文字

大也千松と子題名

石川文山題名

後藤又兵衛題名

塙團右衛門題名

加悦飛彈守題名



驕馬之圖

追加

牡丹小獅子之圖

虎之圖

舞樂太平樂之圖

巴女斬家義首之圖

神功皇后武内宿禰之圖

辨慶負釣鐘之圖

六六魚之圖

初編卷之五目錄終

嚴島扁額縮本初編卷之五

藝陽 千歳園 藤彦著

○楓小鹿之圖

堅九尺余  
横二間余

客人社内陣正面小掲

元祿十五年壬午正月元日藤原常信畫 常信養朴と号右京と稱以又  
耕寛齋青白齋の号あり又古川と稱以主馬尚信の嗣へ當時の名手名聲  
大振あり正徳中七十八歳ありて没り畫圖のこと多し第二卷小出に

○林和靖之圖

堅一尺半  
横二尺余

連歌堂小掲

寛延四次辛未素秋吉日岑信畫 岑信如川弟松本氏隨川と号に  
圓機活法云林通の宋の詩人として和靖先生と稱以孤山と号し處小隱居以常に西  
鶴を畜これに縦て飛で雲霄に今盤旋久して復籠中に入る通常小艇を  
泛て西湖の諸寺に遊ぶ客の至ると何をも童子出て門小應じて客を延  
く籠を開て雀をはめて良久して通歸り常に鶴の飛を以て驗と云云



客人社内  
陣正面  
12 掲  
堅九尺  
余横二  
間余

奉寄附御寶前  
嚴肅整齊替首所

元祿十五年正月元日

金地極彩色



藤原常信筆



連歌堂小揭

豎一尺半  
橫二尺余

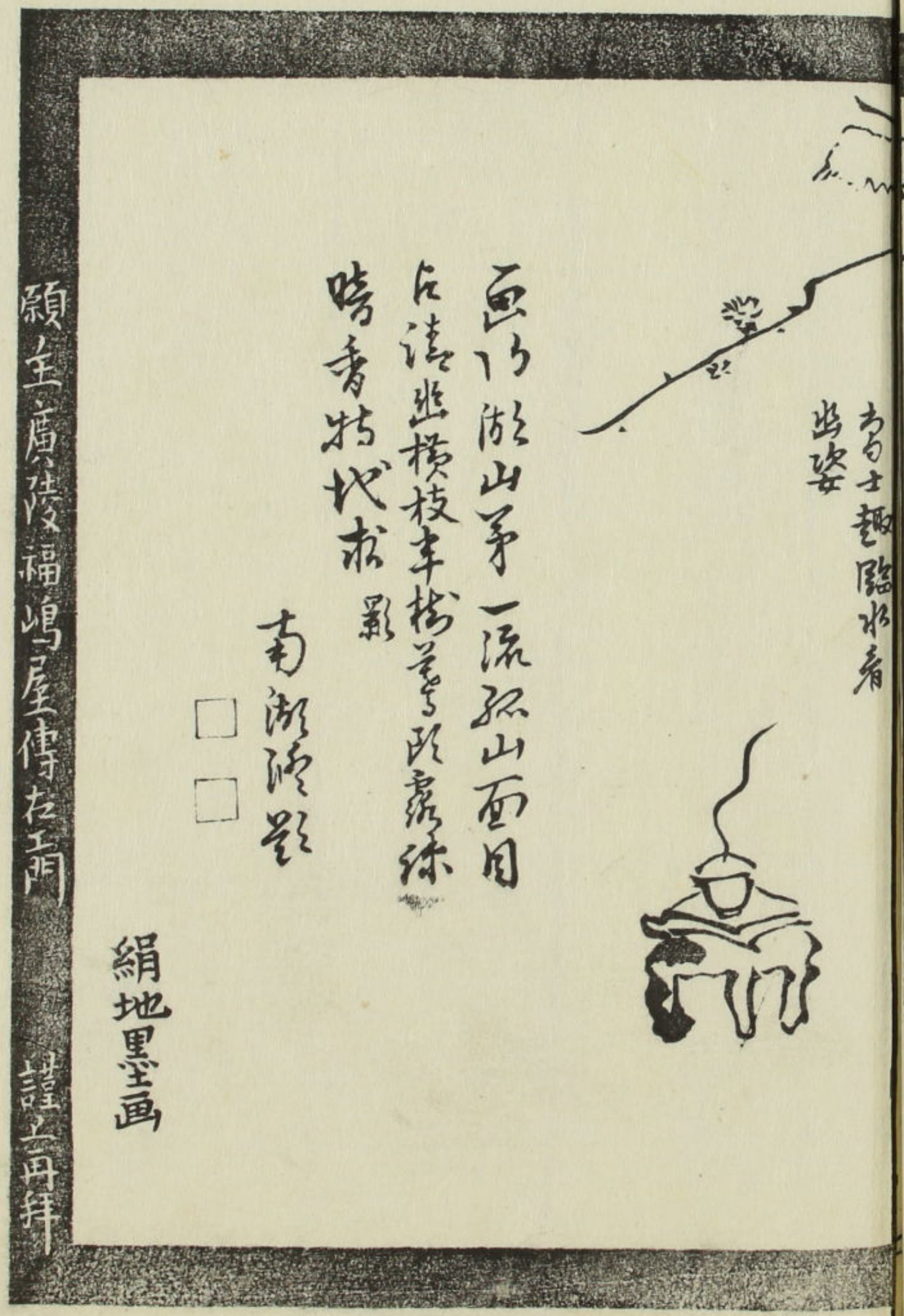


去年秋 寬延四年 十月 廿五日



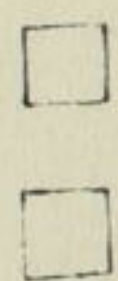
故在末怕空休  
梅發村便也  
方寸士趣臨水看  
幽姿

岑信筆



画以湖山第一流孤山面目  
在法然横枝本梅号以露休  
晴香特地亦

南湖清影



絹地墨画

願主廣陵福嶋屋傳左雨

謹上再拜



○三千風書

堅尺余 横三尺余

本社組入西側小掲

元禄十六年の頃拜社してこれを掲ぐと云く三千風は日本行脚文集に大淀友翰天空法師と号り或は寓言堂と号り勢州の人常の師ありて一家と云ふ人あり延寶中の人

○非諧哉句短冊寄之額

堅三尺余 横二間

本社内陣外小掲

元文三戊午正月吉辰野波翁撰 但哉句百句の内此二句を出余は畧 野波翁は浅生庵と号り越前の人大阪に住し及西國ふほるべ 風律の野波門人多賀庵と号り俗稱木地屋彦兵衛廣島の人多賀庵今に存在して代々非道を嗣

因云芭蕉翁二十五箇条云或人問て云く云ふ何の爲ふ事ぞや答て云俗談平話をたづねる爲あり又問非諧の道と云く云く如何又云く佛道不達磨阿羅漢道不莊子ありて道乃實有を踏破せり歌道不非諧あるもや如斯く云く云く當及び道ふ叶ふ道理と云く非諧の道は歌連の次ふ云く情を向上の一路ふ云く云く

○細工墨形之額

堅五尺 横九尺

本社内陣小掲

元文二丁巳年九月吉日作者不知金地ふ文字を彫刻し此圖中の狂歌の貞柳の作り人のよきと云く云くこの狂歌を墨に寧樂の墨師松井和泉へをりし和泉これを大内奉りて感感のあまり御とびのやられ且由縁齋の号なり云く



大宮組入東向之掲 豎一尺半 横三尺余



豊稔津嶋山へつる如隠も於  
河津の先をさしつる如風光りし  
しりしおをも不無法しつる如いし  
しつる如西陽乃遠帆三つつ  
れつる如折石しつる如  
存の如堆れ船寄経行如  
つる如氷志つる如西海  
つる如ほらる水欄つる如  
風も身か母つる如流つる  
大湯柁津入仙居まへつる

老津波入敷もの名紅島は  
つる如つる如つる如つる  
河津利しつる如  
つる如つる如つる如  
又つる如つる如  
夏つる如つる如  
東住居士  
元禄十六番昭陽昭治且 三つる如



本社内陣外小掲 豎三尺余 横二間

奉納誹諧發句

浪華 渡生菴野坡撰

梅の香やひむくはくちのちのち宜 中波

色もやちの後の後を仲とくは 凡伴

又もよほのちや山形うみは形 松尾

皆元文二戊午正月吉辰

願主 藝陽瀬戸田村 葛西棟紅白

貞柳の永田氏まゝの名信乘浪華人菓子を製衣はをわけて  
業より豊藏坊門人ふく狂歌中興のひと享保十九年没  
因ふ狂歌ふくもの往古師ふく只和歌の名公連歌の宗匠ふ  
と息ふふれく詠ざれくもの建仁寺雄長老と豊藏坊等  
をわりの其師のたふんとつべき

○神馬之圖

豎一丈余 横二間余

本社内陣南向小掲

寶曆十二壬午歲二月日法眼江阿彌畫 江阿彌名は上信風

ふ堂ふのちり大岡氏を冒し法眼位ふ叙は春卜門人なり  
神馬のことすふふえ

○驥馬之圖

豎一尺五寸 横二尺

客人社組入上小掲

享保十六辛亥五月吉祥日狩野松林筆畫系未考

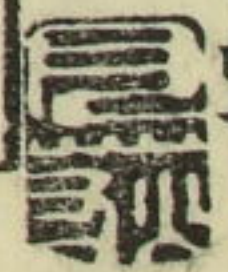




大宮内陣北向掲

横九尺 竖九尺

彫刻金字



乃物と母

のた

のた  
うの  
海

のた

乃

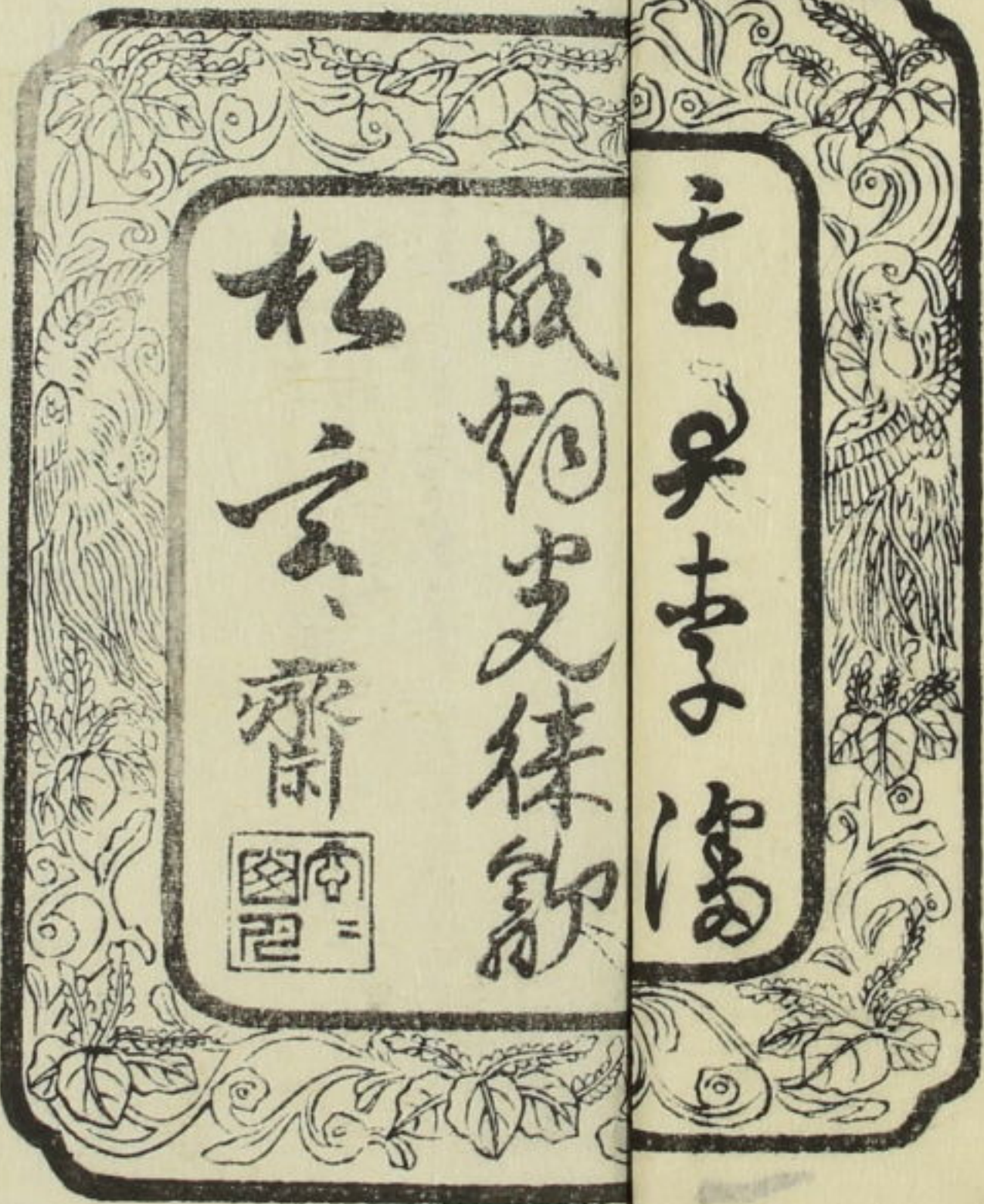
乃

い  
う  
れ  
ふ

申  
あ  
ま  
を  
あ  
ま  
さ  
る  
な

元文三丁巳年九月吉日

左  
大坂  
永田栞因  
芥河貞佐





嚴島廣前

肥前侍從宗教

白紋

大宮内陣南向掲

横一丈余  
堅二間余

宗教

寶曆十二壬午歲二月日法眼江阿弥

金地彩色

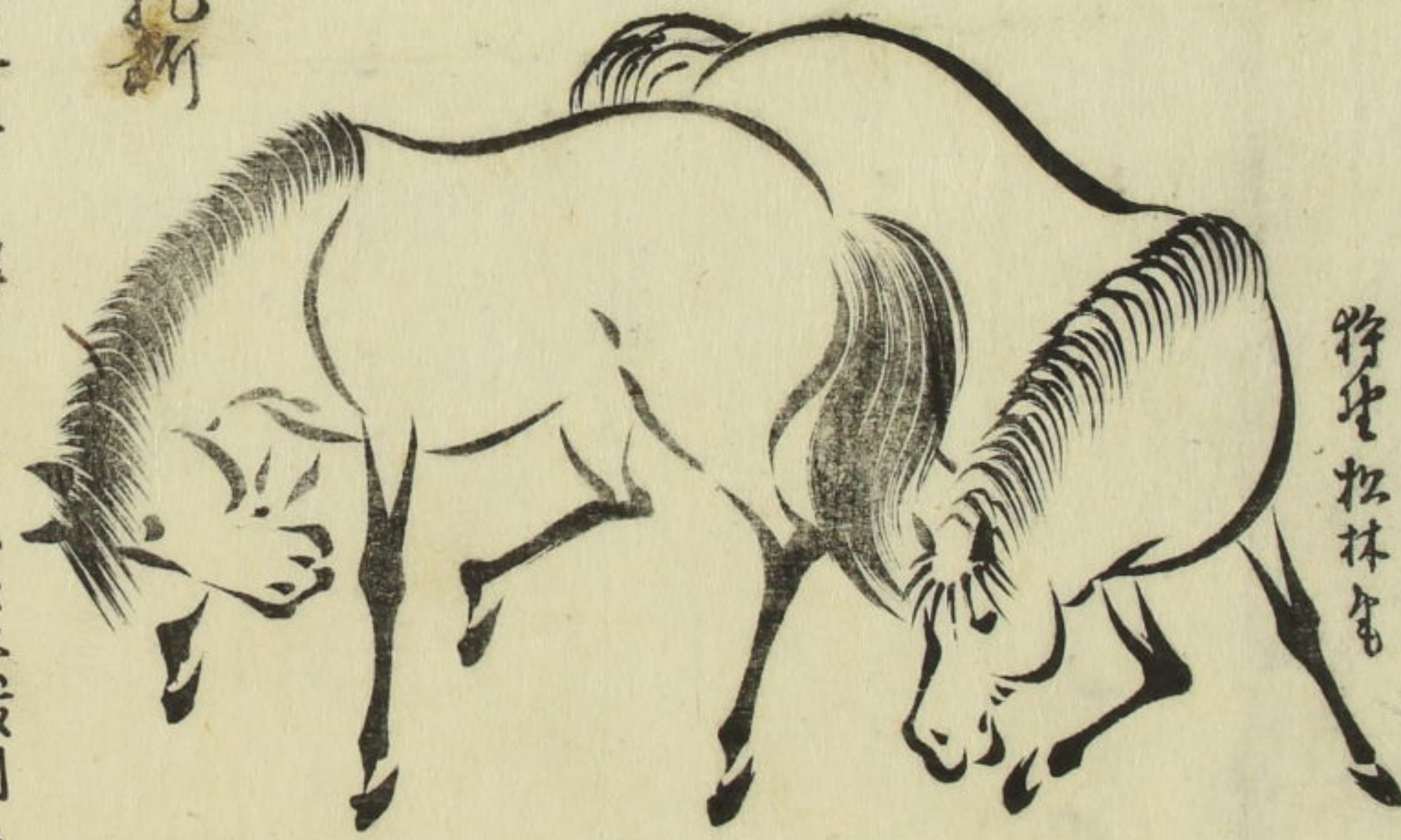




たゞてやうまのこまへみゆ

詠歌成就

享保十六年五月吉日 菅原宗祐畫 世系未考



菅原宗祐畫

尺横寸尺 豎一 掲ふ上入組社人客

○牡丹獅子之圖

豎四尺 横五尺

客人社廻廊正面版下掲

元禄十三年六月吉日 狩野宗祐畫 世系未考

牡丹の事物紀原云階煬帝の世に於て牡丹を傳ふ唐人木芍薬と云ふ南元のとき宮中や及び民間競つてこれを尚ぶ今極めて品多し云々時珍云色の丹まものなるもの上より實を結ぶと云ふも根のくへみ苗を生じ故ふこれと牡丹と云ふ中畧故に世に牡丹を花の王と云ふ芍薬をその名の相と云ふ

因云牡丹の數稱あり。深見草。廿日草。名取草。富貴草。夜白草



木  
 後  
 詞元  
 候  
 折  
 忠通  
 意園

前寶御掛奉



元禄十三年六月吉日

客人社廻廊正面脇小掲  
 横五尺 竪四尺

胡町 杭州唐嶋

将野宗祐筆  
 筆者云海堂  
 堂全翁  
 敬白



周茂叔愛蓮の説より牡丹の花の富貴あるものあり

了はひといふやうなりておむらんよりのみそをいせあり 周茂左大臣

獅子のころ前ふ出たり

○舞樂太平樂之圖 堅五尺 本社組入の外北向の掲

元文二年丁巳九月穀旦丹輪齋畫

山海經云舜の後八子始て舞を作ると云 字彙云古の樂師を伶倫

と名づく世々樂官を掌てきたる善長故に樂官を舞して伶官と

次云く允恭天皇四十二年新羅の王より樂人と樂器を貢るとい

へども本朝まごころをもちひ後推古天皇二十年ふひて百濟

より味摩之已等の三人來るこれを櫻井村に置き少年を集

てあらそひ新漢の齋文等されを習ひ傳ふ云く仁明天皇の時

藤原貞敏入唐して音樂を習得來る承和十四年ふ雅樂頭ふ

任ぢむ 下畧 已上日本紀 の趣意あり

○太平樂の體源抄云武將太平樂の中曲新樂あり又武昌樂と稱す

又巾舞と号し又項莊鴻門曲ともいふ常ふ太平樂といふ或は劍を

ぬひくされを曲ふ舞入す

因云伊津岐島に舞樂ありといふ 廻廊正面に高舞臺ありといふ

大官柵守を舞頭といふ人づく 後頭曲を相傳といふ享和年中柵守をいふ

れく禁中におよぐ 後頭を奏せりといふ人なりき 或人の筆記に享和二

壬戌年九月上京武家西傳奏勸修寺殿千種殿云く十月七日後頭の

假面 神庫 千種殿に持参多同十日假面戲覽と云ふと云ふ千種殿より返り

下さる御添書ふ 戲覽被為濟被返下候古物殊勝之品大切可致御



大官組入  
之外北向  
十二揭  
堅五尺  
橫七尺

元文二年丁巳九月穀旦

金地彩色

梁間  
所揭圖

太平樂

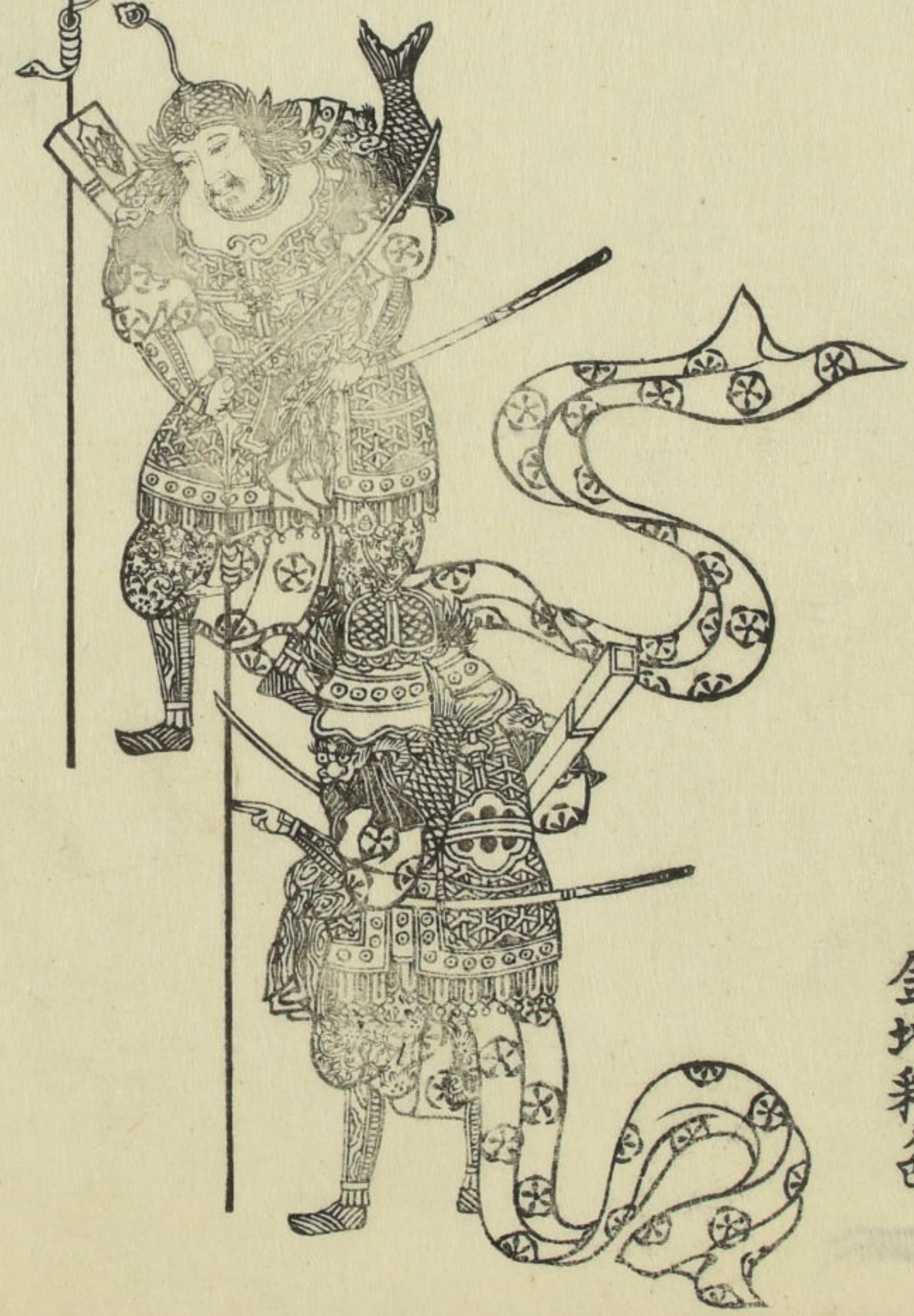
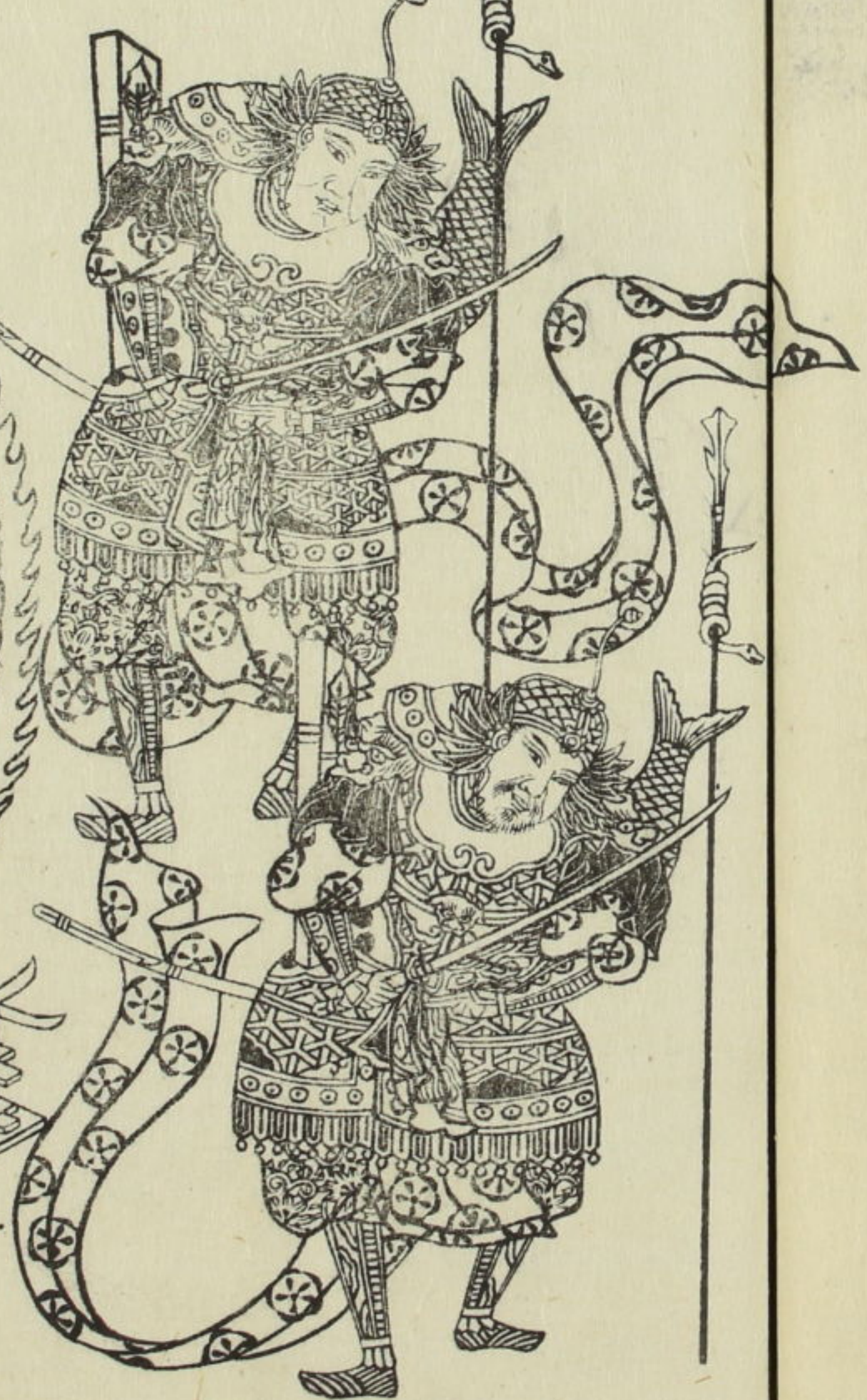
舞形狀

擬戲芥  
廣

錫臨監  
景福茲  
祈



丹倫赤則畫之





沙汰候事さたけこうじより、く敵慮てきりょのまゝえは、當社の御面目ごめんめいより、これをも  
私ひそに請こうくは洩はしぬ

○巴女斬家義之首之圖

堅四尺 横七尺

迴廊御作事所の前掲

寛延四辛未年八月吉日南富畫通稱未考

巴女うらハ木曾義仲きんちゆうの妾中てんちゆう三權守兼遠さんけんえんが娘むすめ今こと年とし二十八歳ふたじゅうはちさいあり、  
關寺せきでらの合戦あつせんに陪從はいじゆう一將軍いっしやうぐんより七騎しちきあり、其その七騎しちきの一人ひとりあり  
り、都みやこでのとき、紺村濃紅こんむらぬらうみ千鳥ちどりの鎧よろい直垂ちかひを著き、今いま關寺せきでら  
の合戦あつせんに、此こゝに織オリは、ひもひくれ、不ふ菊きく額がくを著き、今いま關寺せきでらの  
腹巻はらまきふ袖そでは、五枚ごまい甲かぶとの緒いとを、一丈いちじやう三尺さんしゆ五寸ごすんの太刀たち二十四刺にじゅうしあり、  
真羽矢まはややの射いの、一ひとを肩かたの重藤しやうとうの弓ゆみ、關弦せきげんより連錢れんせん草くさ毛け  
の馬うま、金覆きんふく輪りんの鞍くら置おく、この、七騎しちきが先陣せんじんあり、

り、あふ、かひ、ん甲かぶとを脱ぬ丈じやうあり、黒髪くろかみ後ごへ、と打うちこ  
額ひたいハ天てん冠かんをあ、白しろら、ての笠かさを著き、今いまみ、え、し、く、ら、し、  
優うあり、り、家義いけぎと瀬田せでの手ての先陣せんじん遠江とゑの國くにの住人ぢゆうじん内田うちだ三  
郎さぶらう家義いけぎと名乗なをりこれハ、國くにみ、き、う、え、美男みおとこ第一だいいちの剛ごうの、  
の、り、巴うら引組ひきぐみと勇ゆうを竭きくせ、も終つひの、か、は、り、て、首くびを、を  
え、れ、り、巴うら世よと、ま、り、て、の、ち、右みぎ大將家だいしやうけへ、え、さ、れ、く、和わ田だ小こ太  
郎さぶらうが妻つまとあり、り、  
盛衰記せいすいぎの趣意しゆい  
巴うらと初巻しよまきニ、

○神功皇后武内宿禰之圖

堅六尺 横三尺

本社組入外正面小掲

關中驪山法橋畫 驪山りせん々々後法眼ごほうがん小叙せうじよと畫系がけい未考みこ年号ねんごう月日圖  
中ちゆうみ見みえ、バ



廻廊御作事所の前に掲

横七尺



上南門

寛延四年八月吉日  
日引鉄肥領  
濱村安左衛門



仲哀天皇八年正月天皇筑紫<sup>つくし</sup>を敵<sup>てま</sup>をたひらけりつとて皇后  
 と共<sup>とも</sup>長門國豐浦の宮<sup>みや</sup>を築<sup>つく</sup>前<sup>まへ</sup>へ下<sup>くだ</sup>らせり香推<sup>かうすい</sup>の行<sup>ゆき</sup>  
 宮<sup>みや</sup>に久<sup>ひさ</sup>く留<sup>とど</sup>まりし聖<sup>みこと</sup>九年<sup>くわんねん</sup>此<sup>こゝ</sup>二月六日崩<sup>ゆづり</sup>トひひぬ  
 天皇<sup>てんわう</sup>の御屍<sup>みづかみ</sup>をなげり御棺<sup>みくわん</sup>を推<sup>おし</sup>の木<sup>き</sup>ふけかれり異<sup>い</sup>香推<sup>かうすい</sup>四方<sup>よつた</sup>より  
 薫<sup>かへ</sup>どよめり香推<sup>かうすい</sup>と名<sup>な</sup>めりともや  
 推<sup>おし</sup>木の<sup>き</sup>ありし所<sup>ところ</sup>今<sup>いま</sup>古<sup>ふる</sup>宮<sup>みや</sup>と云<sup>い</sup>ふ  
 天皇<sup>てんわう</sup>崩<sup>ゆづり</sup>御<sup>み</sup>の<sup>み</sup>ら三<sup>さん</sup>  
 月吉日神託<sup>しんたく</sup>ありしと白皇后<sup>しろくわう</sup>三韓<sup>さんかん</sup>征伐<sup>せいばつ</sup>の為<sup>ため</sup>恙<sup>はげ</sup>なく對馬<sup>たいま</sup>和珥<sup>わゐ</sup>の  
 津<sup>つ</sup>みいりりし時<sup>とき</sup>御産氣<sup>みうぢけ</sup>はせられしを御船<sup>みふね</sup>より下<sup>くだ</sup>させり石<sup>いし</sup>に御  
 腹<sup>はら</sup>を冷<sup>ひや</sup>しりし汀<sup>みづき</sup>あり白石<sup>しろいし</sup>を裳<sup>も</sup>の腰<sup>こし</sup>ふりしと誓<sup>ちか</sup>言<sup>ご</sup>ての<sup>の</sup>りし今<sup>いま</sup>我<sup>われ</sup>  
 身<sup>み</sup>を<sup>を</sup>とく敵<sup>てま</sup>國<sup>くに</sup>の<sup>の</sup>りしと云<sup>い</sup>ふ宗廟<sup>そうみやう</sup>社稷<sup>しゃしやく</sup>を<sup>を</sup>とくせん為<sup>ため</sup>  
 あり願<sup>ねが</sup>ひ異<sup>い</sup>國<sup>くに</sup>を征伐<sup>せいばつ</sup>し飯朝<sup>いひあさ</sup>の<sup>の</sup>りし産<sup>うま</sup>れりしと中畧<sup>なかつりやく</sup>して歸朝<sup>ききう</sup>  
 の<sup>の</sup>りし同年<sup>どうねん</sup>十二月十四日辛亥<sup>しんげい</sup>の日<sup>ひ</sup>糟屋<sup>そうや</sup>の郡<sup>ぐん</sup>蚊田<sup>もんぢ</sup>の<sup>の</sup>りしと云<sup>い</sup>ふ  
 大宮<sup>おほみや</sup>組入<sup>ぐみいり</sup>の外<sup>の</sup>正面<sup>しょうめん</sup>面<sup>めん</sup>掲<sup>か</sup>  
 聖<sup>みこと</sup>六尺<sup>ろくせき</sup>  
 横<sup>よこ</sup>三尺<sup>さんせき</sup>



關中孫山法橋畫

金地彩色



みく皇子御誕生あり即人皇十六代應神天皇八幡大菩薩の御事くらくれ時の供奉武内宿禰とて住吉大明神の御告ありく龍王ふ干珠満珠の玉を借り宿禰これを奉行して大海の汐のちひをさひぬすにふりかへし遂に三韓を征伐しつゝ

りりとして云々 已上日本紀舊事紀等撮要

○皇后八人皇十五代仲哀天皇の御后八幡大菩薩の御母人皇九代用化天皇の御曾孫氣長宿禰の王の御女氣長足姬命之

○武内宿禰ハ景行天皇三年屋主忍男武雄心の命紀伊の國み諸で河備の柏原ふ居一紀直の遠祖菟道彦の女影媛を娶て武内宿禰を生即高良明神と申奉りての御事云々 已上日本紀等の記

○ト部兼隆抄云武内宿禰ハ中界日本大臣のちた之仁徳天皇五十年薨りて景行成務仲哀神即皇后應神仁徳とて六代の朝政をうけ行はれり御年三百六十二歳云或云諸社根元記云高良とて藤原の大連連保の御事あり神号を高良玉垂命と云干満両珠を以て奉行すむ故玉垂と号一奉住吉大明神の化現あり

○辨慶負釣鐘之圖

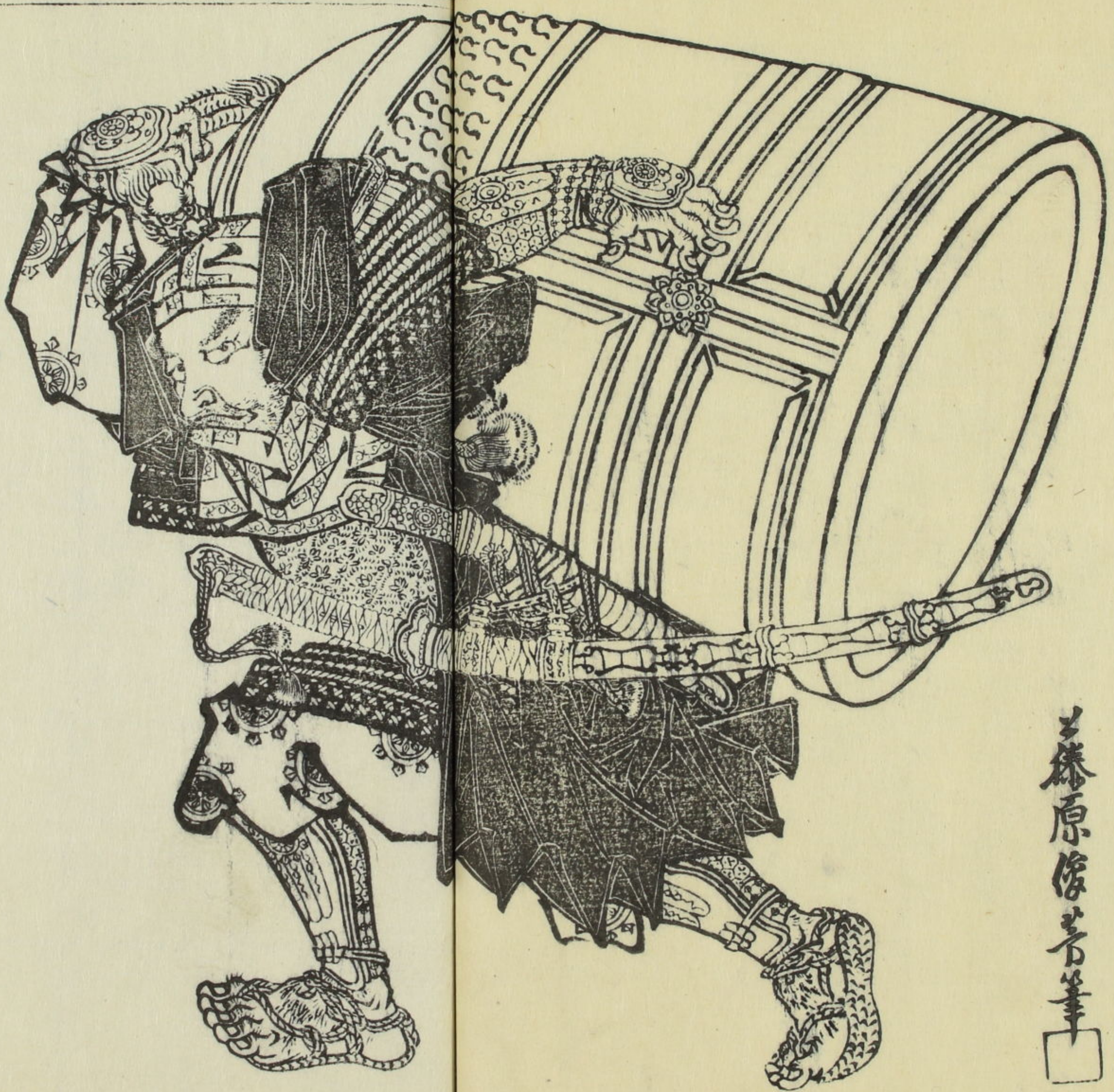
聖七尺 横七尺寸 客人杜正面小掲

文政九年丙戌五月吉日俊芳筆 俊芳名信字山三牧齋と号後東都探信齋の山人とて守嗣と改む通稱山野啓二廣島人此釣鐘ハ江州三井寺の小説ふれり湖中ふ淪没しり辨慶背負台山へのむりてふれらのとて案の圖をまきけりたふあべー又文保二年三井寺回祿の時この鐘を山門へ引寄朝夕みそれを撞ども吼びてんおん撞木もて二三十人ふはきりて三



容人社正面掲 鑿七尺  
横七尺半

奉掲



珠原俊芳筆

貴文政九年正月吉日

寺西王忠敬具

金地彩色





井寺へいふて吼りーと云

因云鐘員ふねのいふる文保奏上のと山門の徒の背負せおひしたる圖あり

いふるをいふといふ其風情宛も辨慶ぶんけいの侶りよやちきとあはれ後世のちのよふ

辨慶ぶんけいとして傳つたを異ちがふやいふ此等これらの由縁ゆゑんの寺てらふ鐘かねのとなり

やーものいれをいれふまててふいふら

辨慶のとりまへふと云

○六々魚之圖 竪七尺余 横二間余 本社内陣ほんたいじんふ掲

文政十一年戊子七月吉日雪塘書画山田彌字伯諧一字良平

号雪塘又号墨耕其樓曰遠翠廣島の人

鯉こいの本草綱目ほんそうこうもくふ鯉こいの魚品うまのあひの上うへに陰魚いんぎよあり故ゆゑに六々の陰數いんのかひ

あり其脇一道頭そのわきいちだうとうより尾おしふくやぐく大小おほいせうのく皆みな三十六の鱗うろこあり

るること小黒の點あり鱗うろこふ十字の文理あり故ゆゑに鯉こいとをいづく下畧

鯉こい

水みづづぬふうきいれくはく比ひ勢せうのいはらまはきもせりぬの世よや 先後

附録

題名の部

古今諸名人の題名 數十のち其二三を出る

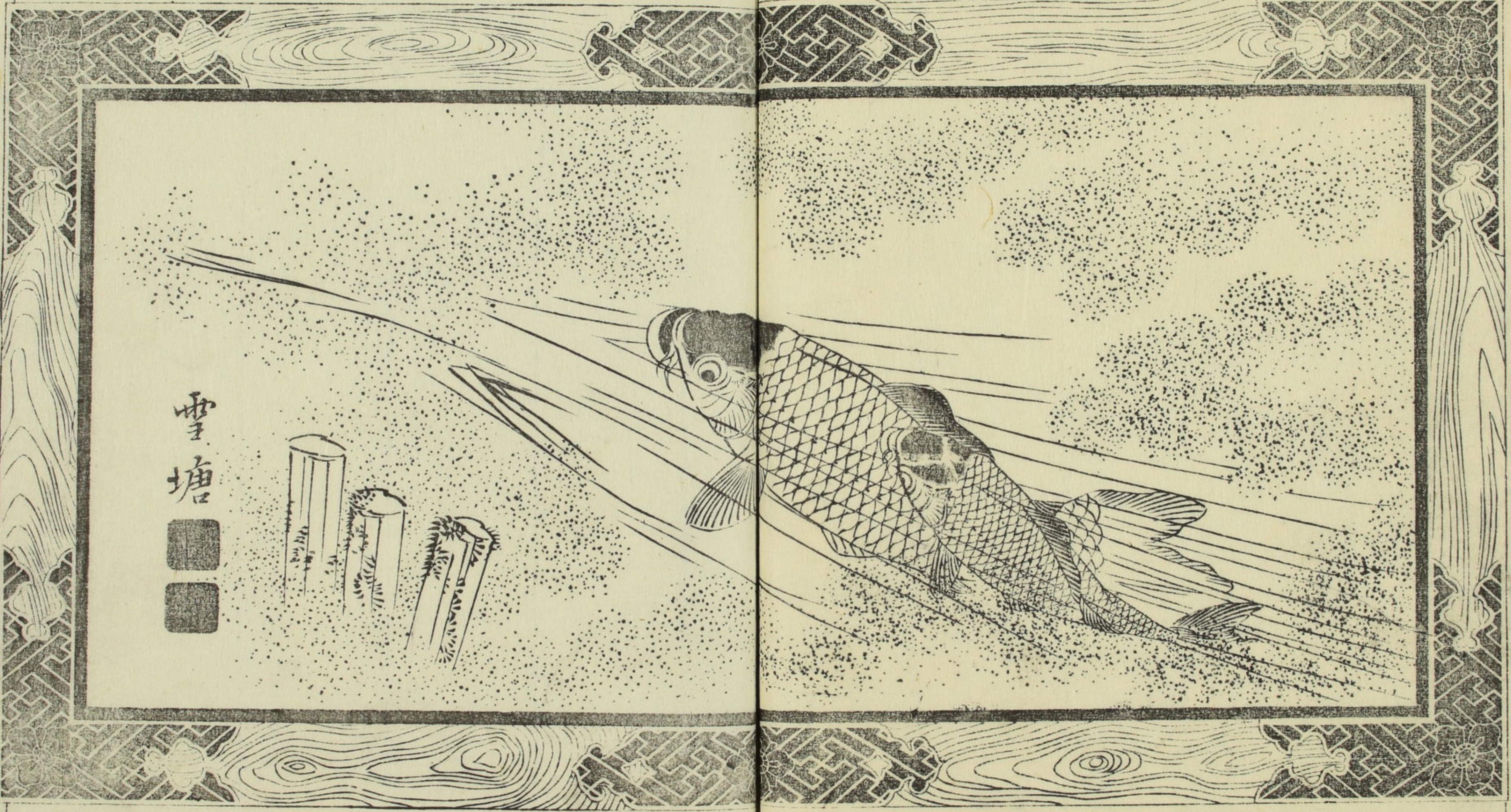
○大小の文字

彌山本堂あり

この書は弘瀧大師の真筆みて往昔へ全帙ぜんていふ認とまぐりーが年



本社  
内陣  
正  
小  
掲



聖塘



堅五  
尺餘  
橫二  
間餘

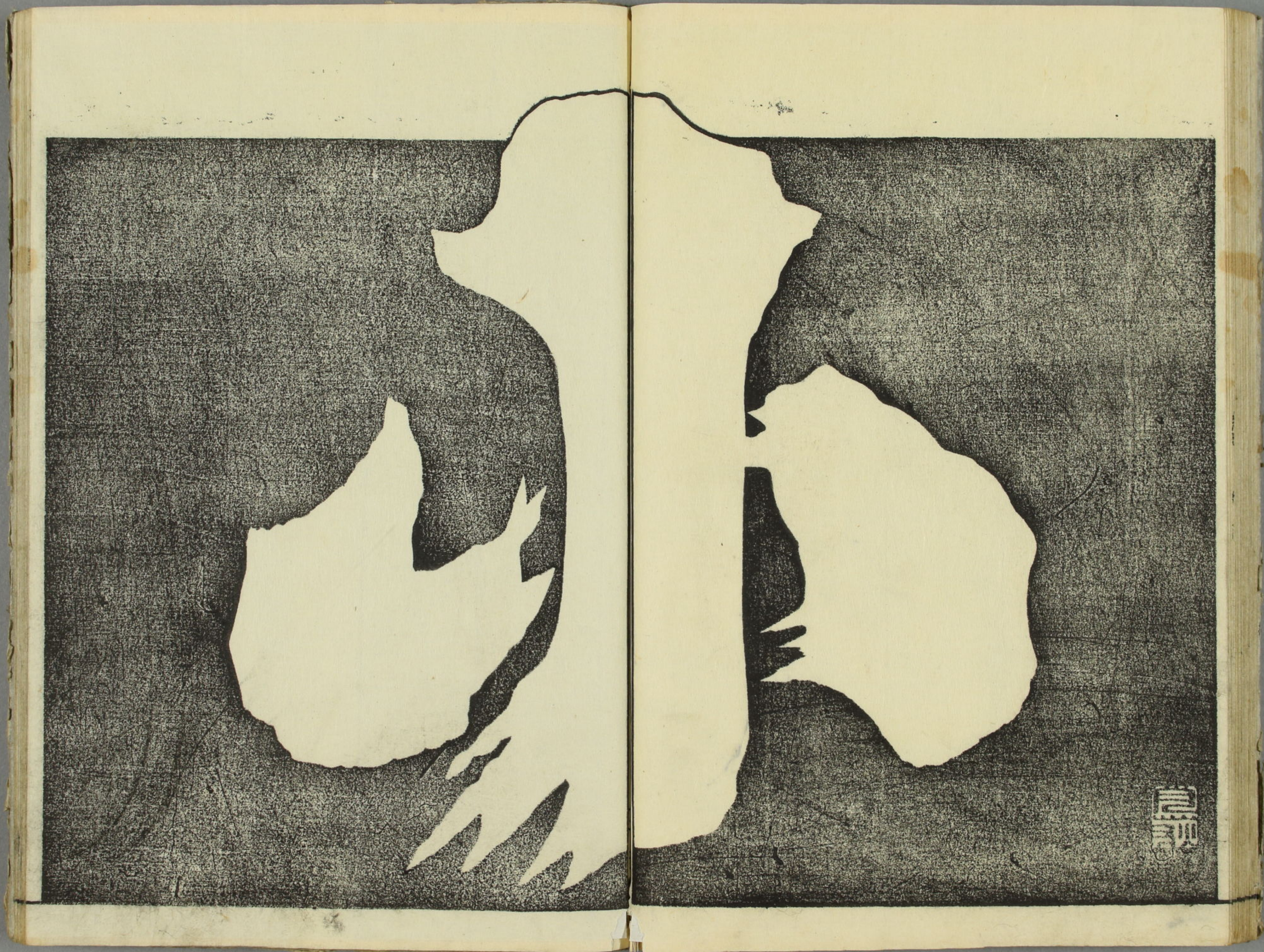
金地  
黒画  
青金  
砂粉



彌山本堂







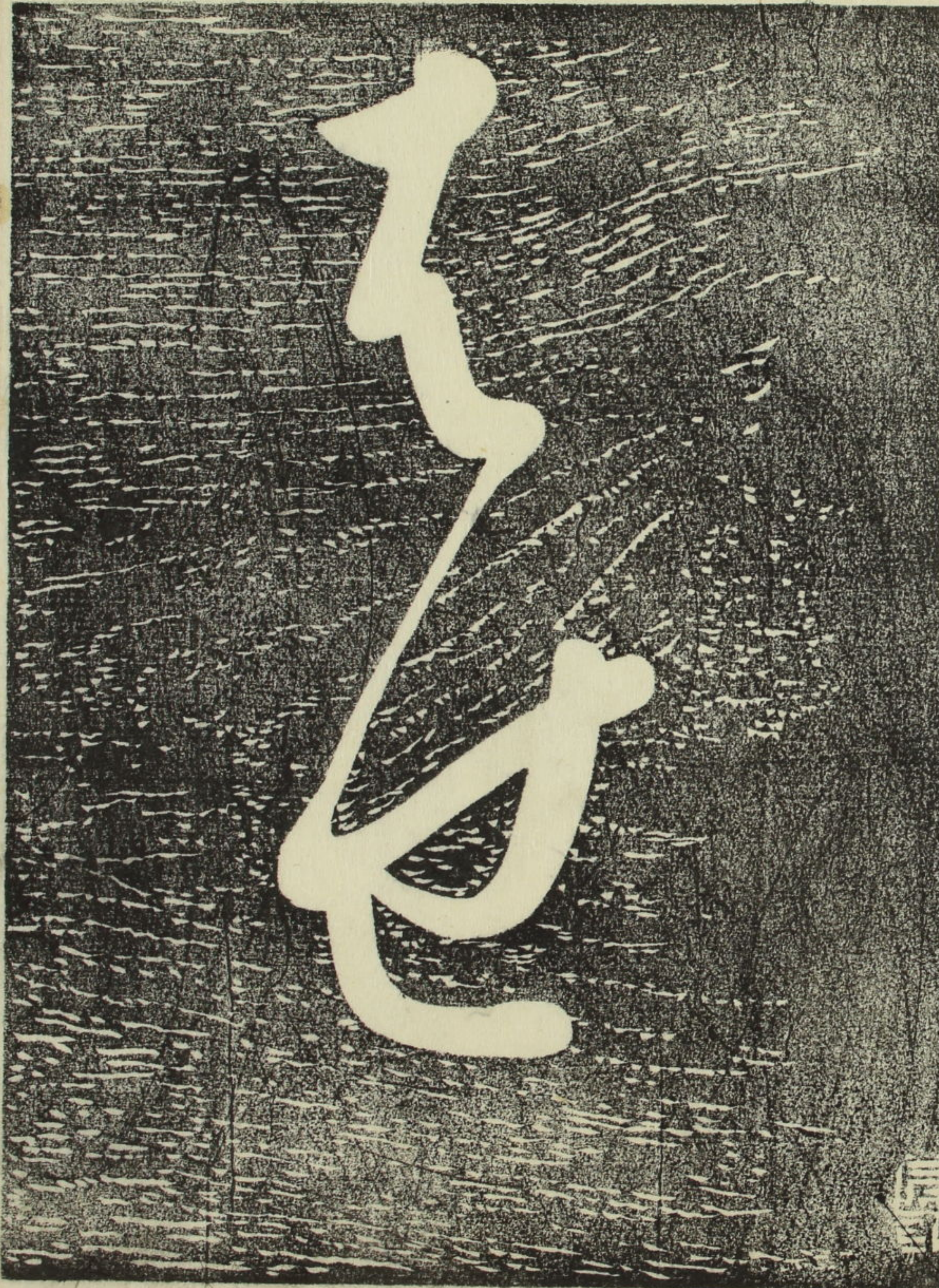


羊ひよの模寫まがみよひく破損やぶもるゆゑされを繕寫として今ハ版の  
 西面し彫刻ちやうはけて毎月毎月の大小おほふ應おうはふく柱はしらよろこぶ  
 もあふ諸人しよを乞こめて寫かきよもの羊ひよ其數かずをあらは  
 因よ云い大師だい彌山みやまよりりあつて羊ひよ久くこれ大師だいの真蹟まんとく少  
 ありばされど容易たやすからされが今この二文字ふたごを模寫まがして題  
 名なの部ぶふくりあふの

○大セ千松とふ題名 廻廊反橋の北丸隅木にあり

けくへいふ千松せんまつ君きみの尊圓そんげん法親王ほふしんの幼名おななありあつてその嚴島えんじまに  
 詣までるあつてりく近侍きんざいとりに廻廊まわらうをこめりりふに筆馬ふでうまと  
 りてとりゆふやうて近侍きんざいの肩かたふららりて自身みづかみの御名みなを  
 書かのころりふとて是これを當社あたがや題名なの權輿ごんいといふなり

廻廊反橋の北諸角木ふりて





千松

因云尊圓親王の伏見院第六皇子幼名千松諱守彦尊彦の  
ちみ改めて尊圓と号し大乗院と稱し青蓮院御門主あり本朝近  
代の能書にり世ふ御家流と稱し祖師とに延文元年九月薨御  
世壽五十九云又傳言弘治元年陶尾張守時堅毛利家を襲  
とんとて三万余騎を率し當島を據り毛利家忽し陶を討  
ちし戦死その數をりたされ靈地の汚穢をりりして廻廊  
等更ふ再建ありりそのいも千松君の題名の角木なり  
りそのやうに古きをとりいられりあり

○石川丈山題名

千疊敷柱あり

これいひゆるく人の見るとるありに近年修造のきぎり此柱



題經堂柱

凹凸窠

一島周迴惟七里層峯  
蒼爵勢力竟然宸賓浴  
長濱水群妓徘徊小浦  
邊塔傍山堂高聳漢寺  
栖林壑薄篔簹烟飛樓  
殿連江曲無數神燈照  
客船

寬永十三年丙子春三月



くらぬよりのとらえられに彼詩をを諸家より所せりといふ  
爰に出入のて丈山のてはまへふみゆ

○後藤又兵衛題名

西廻廊根押あり

此題名は頃いぬる人といふて慥あらざれども武邊聞書てふ  
もの後藤又兵衛基次九州の浪人上方へ登るはて巖島へ潮  
がりやゝとの河をてあんはまをこの時のまとありしや

○塙團右衛門題名

このだいめん千畳敷椽框あり團右衛門寶藏拜見のうへ  
さなりから戯まふうきたるゝと古老ひひつゝとあり

西の廻廊根押あり



長



城

田



國

心



五  
及  
家  
心

六  
源  
源



情もなほ

恋は

又あんと

けしき

あはれ

心をとら

し

心ゆく

命をなす

右のうゝ詞花集に本歌あり假名てふをけしきありといふも  
改めば本書のまゝをこゝに記す





肥後之國守

吳加悦老驛守

時之司人依如女大

頃法也

如根老重司

之

以之

又

一

之

月行三

口斯

口斯

口斯

口斯

口斯

口斯

口斯

口斯

口斯

口斯

口斯







嚴島扁額縮本初編卷之五終

つららとて奉まゐり



容人社廻廊左小掲  
横三尺 豎五尺

坊四十四番

鳥居



縮圖

藝陽

渡邊對岳

全

有臥遊印章者  
有白斐印章者

全 九茂文陽  
全 白井南章  
全 千歲園藤彦

筆者

全 渡邊黃鵠

五冊三

岡田清大人編輯  
峻峰齋守嗣画圖

嚴島名所圖會

寶物圖會合

拾冊

千歳園大人編輯  
諸名家縮圖

嚴島繪馬鑿

五冊

全

二編

近刻

全

三編

嗣出



剗刷

廣島

阪田忠五郎  
山口宗五郎

天保三年壬辰三月剗成  
嘉永元年戊申三月發行

廣島書林

中島本町南側

世並屋伊兵衛藏

發行

京都

二条通衣棚

風月莊左衛門

寺町通松原下

勝村治右衛門

日本橋通壹町目

須原屋茂兵衛

江戸

芝神明前

岡田屋嘉七

書賈

大阪

心齋橋通博勞町

河内屋茂兵衛

口 安堂寺町

秋田屋太右衛門



